



ザ・ペニンシュラ香港の正面ファサード。1994年に30階建てのタワーウィングを新設している

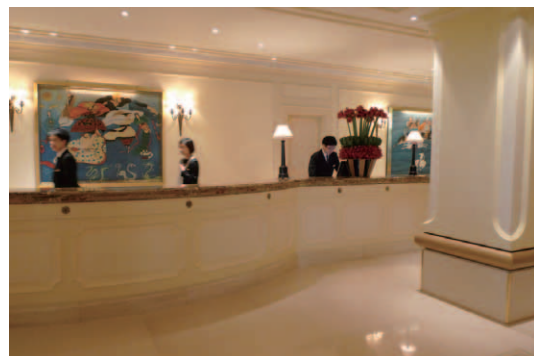
ザ・ペニンシュラ香港 The Peninsula Hong Kong

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



コロニアルな雰囲気のエントランスホール。お馴染みの白の制服・制帽のページボーイがこやかにゲストを迎え入れる



レセプションカウンター。ホールの華やかさを損なわぬ配慮から、コンシェルジュなど事務系デスクは奥まったスペースに配置している



筆者 小原康裕

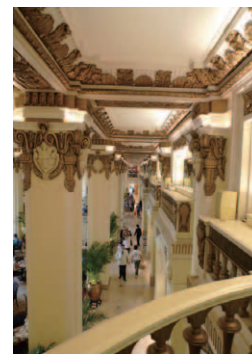
ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健株代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。
www.jhrca.com/worldhotel



正面玄関の両側を2頭の獅子像が見守るエントランス車寄せ。最新のロールスロイス・ファントムを14台所有しており、これほどロールスが似合うホテルは他に類を見ないであろう



優雅な空間で伝統のアフタヌーンティーを味わうために世界中の観光客が列をなすラウンジ「The Lobby」



中2階回廊から俯瞰した、天井や列柱に繊細な彫刻が施されたエントランスホール



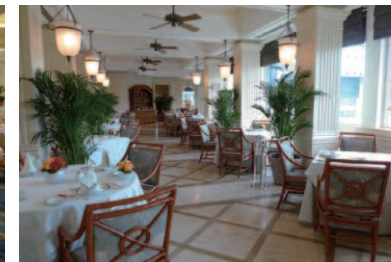
7階にある「The Peninsula Spa」館内の優雅な中央ホール



8階にあるスイミングプール。ガラススクリーンは閉鎖状態で、テラスから香港島の摩天楼が望める



1953年から長年にわたり愛されてきた正統派フレンチダイニング「Gaddi's」



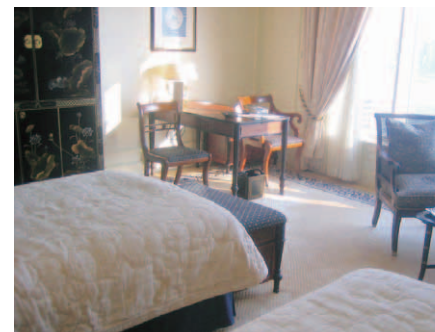
天井でゆっくり回るファンがコロニアルな雰囲気を出すオールデイダイニング「The Verandah」



タワーウィング高層階にある客室「Grand Deluxe Harbour View Room」。部屋からは香港島の圧倒的な超高層ビル群が望める。写真は改装前の客室で、タワーウィングは今年8月に終了し、現在は旧館の改装中。来年3月に全工程が完了予定である



総大理石のバスルーム。バススタブには早くからビルトインのTVを導入している



TVやグラス類が取まった重厚な中国趣味の家具とライティングデスク

これほど、その土地とホテルがあらゆる方面で密接に繋がった関係は、他に類を見ないであろう。香港を訪れた人なら誰しも、九龍半島の先端にそびえる壮麗なコロニアル建築に目を奪われるに違いない。車寄せには最新のロールスロイスが並び、正面玄関の両脇を2頭の獅子像が見守るエントランスでは、おなじみの白の制服・制帽のページボーイがこやかにゲストを迎え入れる。ザ・ペニンシュラ香港は、この香港・九龍の土地と不可分の関係であり、まさに「香港のシンボル」と言えよう。

九龍側サイドのホテル建設はユダヤ系イラク人であるカドゥーリー兄弟の、「スエズ運河より東で最高のホテル」を建てることで始まった。当時としては破格の200万ドルの巨費と7年の歳月を費やし、1928年12月11日にペニンシュラ香港の開業を迎えることになる。既に多くの商業ビルや官庁が集まった香港島ではなく、まだ田園地帯の続く九龍半島の発展の礎がここに始まり、後世の目覚ましい尖沙咀の開発ラッシュに結びついて行くのはご承知の通りである。(ペニンシュラの母体である「香港上海大酒店有限公司」については本誌Vol.25、ペニンシュラ上海編で詳述) その後のペニンシュラは増大する顧客数に対応するため、1994年に30階建てのタワーウィングを新設して、香港のランドマークホテルとしての地位を不動のものとしている。

白手袋のページボーイにドアを開けてもらい、一步館内に入れば天井や列柱に繊細な彫刻が施されたネオ・クラシック様式のエントランスホール「The Lobby」に目を奪われる。この優雅な空間でアフタヌーンティーを味わうために、世界中から観光客が列をなしているおなじみの光景だ。また、クラシカルなホールの華やかさを損なわぬ配慮から、コンシェルジュやレセプションなどの事務系デスクは奥まったスペースに配置している。館内のレストランについては、香港のランドマークとして長年にわたって愛されてきたフレンチダイニング「Gaddi's」、ノスタルジックな雰囲気のオールデイダイニング「The Verandah」など個性あふれる九つのレストラン・バーで楽しめる。「The Peninsula Spa」ではトリートメントのほかフィットネスやスイミングプールの施設があり、旧館屋上にあるプールのテラスからは香港島の圧倒的な超高層ビル群を見渡すことができる。現在、ホテルは客室の大規模リノベーションの最終局面にあり、コンテンポラリーなデザインで新装なった客室が期待される。

ペニンシュラホテルズのオーナーは創業以来「カドゥーリー家」が占め、現在は5代目のマイケル・カドゥーリー氏であり、運営だけではなく「ホテルの所有」を是とする基本姿勢を今も維持している。2003年のSARS危機で香港のホテル業界が大打撃を受けたときも、ペニンシュラは一人の従業員も解雇しなかったという。その土地の風土、文化に根ざしたホスピタリティは今も脈々と受け継がれている。